

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ここはお客様の生活の場です。つまり家です。その家で自分らしく生活できるように支援します。」を軸とした深雪独自の3つの理念を職員で話し合い作成した。		チームで理念を共有すると共に地域の福祉サービスの拠点としても役割を果たして行きたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念、深雪独自の理念は事務所内の見えやすい所に掲示している。また、理念や部署目標に沿った職員の目標管理を行なっている。		理念に基づいた目標を持ち、その実践のために組織としてサポートして行きたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議にてお知らせしたり、来所される方にも見ていただけるように玄関フロアにも掲示している。		地域の方にもっと知っていただくために『深雪便り』のようなものを作り配布して行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	普段はご近所の方とご挨拶をすることはもちろんだが、閉鎖的にならないよう玄関周辺環境を工夫したり、出入りしやすい雰囲気作りを心がけている。		今後も近隣とのお付き合いを大事にして行きたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動や行事へは積極的に参加するようにしている。また事業所で企画した行事への参加を地域の方に呼びかけ交流を図っている。		今後も継続して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の集会に参加し、福祉制度や認知症について啓発を行っている。		今後も地域に呼びかけ必要な情報提供ができるよう話し合いの機会を持ち、暮らしに役立てることができるよう取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は自分達の業務を振り返る良い機会と捉え、そこで出てきた課題や外部評価で指摘された事項についてミーティングを行い改善に向けて取り組んでいる。		定期的な自己評価を行い課題を明確にしたり、がんばりを認め合ったりしていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催しそこでの意見を職員にも提示しサービス向上に活かしている。また開催時間を11時～13時とし利用者と一緒に昼食を食べてもらっている。		参集者からの意見や要望などチームで共有しサービスの向上に活かしたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する会議や委員会に出席している。また10月に実施される健康福祉祭においては施設紹介のパネル展示で参加している。		積極的に連携をとり質の向上につとめたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業について勉強会を行っている。		丁寧な説明をこころがける。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止・身体拘束廃止委員会を中心に啓発研修を行っている。		研修会等に積極的に参加し、伝達講習をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に丁寧に説明し必ず同意を得ている。またその後も不安や疑問点について随時説明している。</p>	<p>介護保険の制度や、施設の重要事項、また施設理念なども丁寧に説明し、事業所の方針を理解していただくようつとめたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者やご家族様に随時意見や不満等をお聞きし、それらについてミーティングし改善に努めている。</p>	<p>意見や不満・苦情に対して迅速に対応し運営に活かして行きたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や特変時(事故や体調不良等)など随時連絡している。また月1回、個別のお便りを写真付で作成しご家族様へお渡ししている。</p>	<p>今後も継続し、きめ細やかに対応していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>階下の玄関フロアに意見箱を設置している。法人全体で家族アンケートを年1回実施している。また介護計画更新時や面会時には意見を聞いている。</p>	<p>意見や不満・苦情に対して迅速に対応し運営に活かして行きたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の部署会議や施設全体の職員会議、日々の業務の中で出た意見や提案は必ず反映できるようにしている。</p>	<p>運営者や管理者に対して意見が言えるように働きかけていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況の変化に対応できるよう勤務の調整や業務内容を工夫している。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なるべく大幅な異動はしないよう配慮している。</p>	<p>チームワークを大切にしたい。同僚への思いやりやお互いの気持ちを大切にし一人で悩むことがないような職場を作って行きたい。</p>
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>各種マニュアルの整備はされている。現在見直しを行っている最中である。今後も必要なマニュアルについてはその都度作成していく。</p>	<p>各ホームで見やすい所にそれぞれ保管できるように準備している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	年度初めに研修の年間計画をたて職責別研修を実施している。またOJTのみならずOFFJTについても計画的に実施し教育訓練を行っている。外部研修についても自己啓発研修などを法人で推奨している。	研修参加に対しての働きかけを今後も継続していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で開催される業種交流会に参加している。	横断的名連携を今後も行っていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	サービス残業を無くす。定期的、必要時は適宜面接を行い、直面している問題や悩みを聞き、問題解決や悩みの解消に向かえるよう助言を行っている。業務など仕事の状況についても点検している。	些細なできごとでも気軽に話せる関係を構築し、気持ちよく仕事ができるよう取り組んでいく必要がある。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	目標を持って働くことができるよう支援している。その目標に対しては定期的に進捗の面接を行い、状態の把握に努めている。	目標達成するためにチームで協力し合う必要がある。また向上心がもてるような働きかけを行う必要がある。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	望む生活は何か、困っていることはないかなど利用者が必要としている支援を聴くための機会をつくっている。	話し方に配慮し利用者自身が話しやすいような雰囲気作りを行っている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申込みに至った家族の思いを受け止め、何に困っているのか、グループホーム入居に対する不安や要望を聴くように心がけている。	話しやすい雰囲気作りや面接を行い信頼関係を構築するようつとめている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>現在満員のためすぐの入居ができない場合は他の事業所への紹介を行っている。在宅生活での支援が必要な場合は社会資源の情報提供を行っている。</p>		<p>他のサービス事業などと協力・連携をとって行きたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前にグループホームの見学を行っていただいたり、見学時には過ごしやすい雰囲気作りを心がけている。</p>		<p>環境の変化による不安を少なくするため施設見学とうの働きかけを今後も行っていく。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理を作ったり、畑での作業などを職員と一緒にやる事を通じて利用者から学んだり、信頼関係を築いている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>些細なことでも報告したり、小さな変化でも情報の共有に努めている。また家族が意見や要望を気軽に話せるような関係づくりを心がけている。</p>		<p>家族の協力を得て利用者が楽しく過ごせるよう今後も配慮していきたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>面会時には利用者の様子をお伝えし、遠方のご家族には電話や手紙などで連絡をとり、意見や要望を引き出せるよう働きかけている。</p>		<p>よりよい関係維持に今後も配慮していきたい。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>以前から利用されている馴染みの美容院や行きつけのスーパーに行けるように配慮している。</p>		<p>希望するときに外出できるよう職員配置などにも配慮していく必要がある。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士の関係性を普段から把握し職員間でも共有し、トラブル予防に努めている。</p>		<p>利用者同士のトラブルを予防するため職員が一人ひとり気を配っている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後のことについての相談に対して助言を行ったり、情報提供を行うなど配慮している。		退去後も退去先に赴き面会している。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向など、ご本人の思いを引き出せるよう関わっている。		意思表示が難しい利用者には家族などからも情報を得るようにしている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人にこれまでの生活の様子をうかがい、今までと変わらぬ暮らしが提供できるよう把握に努めている。		普段から些細なことでも話し合い利用者の個別に応じた対応ができるよう情報交換を行っている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	状態の変化や特変が見られた場合は日誌や生活記録に記入し、チームが把握できるよう努めている。		業務の前に必ず申し送りや日誌を確認し日々利用者の状態をチームで共有できるようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	経過記録や日誌、日々の関わりの中で利用者の課題やケアの方向性をチームで話し合い介護計画書を作成している。		チームでアセスメントやモニタリングを行っている。利用者の要望や望む生活が送れるよう常に情報交換を行い、計画に取り入れている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間ごとにアセスメントやモニタリングを行い介護計画書を更新している。状態変化や特変があったときに随時見直し介護計画書に追加している。		状態変化があった際は速やかに計画の修正や追加などの変更を行い内容の情報共有を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に沿った記録を行うと共に、気付いた点や特変については詳細も記録し、情報共有している。		申し送りや日誌、経過記録に目を通し情報の共有を行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスや学童保育との交流を定期的に行っている。デイサービスで設置しているトレーニング機器を利用している。		利用者の要望に柔軟にこたえられるよう配慮していく必要がある。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の要望を取り入れ地域のボランティアを受け入れたり、消防訓練時は警察や消防のほか地域の自主防災組織などの協力を得て訓練を行っている。		地域の方々や消防と協力し普段から訓練を行っていく必要がある。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の施設ケアマネジャーと連携をとり情報交換を行っている。また利用者の希望によりサービス提供できるよう支援している。		生活に必要な支援を他事業所と連携し利用者にサービス提供していかなければならない。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在権利擁護事業対象者は入居していない。包括支援センターとは定期的に情報交換の機会を設けている。		利用者の意向に沿って必要時は柔軟に協働していく必要がある。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望されている方についてはそのまま継続し、必要に応じ協力医の往診や受診も対応している。		利用者が受けたいと思う医療を受けられるよう支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医を定期的に受診し、利用者の現状を報告・相談し、助言を受けている。		内科的な治療だけでなく認知症に対しても継続した治療が受けられるよう専門医との連携を図っていく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が定期的に健康観察を行い、利用者やご家族、職員に対して助言を行っている。また協力医の看護師とも随時連絡を取り合い情報交換を行っている。		常に医療情報の共有をし、利用者が安心して生活できるように配慮していく。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した際はご家族と連携し医療機関との情報共有を行っている。また退院に向けては安心して退院でき、グループホームでの生活に戻れるよう支援している。		利用者の入院中の様子や退院に向けた調整を行う上で、利用者や家族の意向を尊重しながら、医療機関との連携に努めている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時の対応について本人や家族と話し合い、かかりつけ医へも情報を提供し、安心して生活がおくれるよう随時連携をとり、方針が共有できるようカンファレンス等で話し合いをもっている。		終末期のあり方についても本人や家族とグループホームの方針について話し合いをもち、安心した生活が送れるよう配慮していく。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に利用者がより良く暮らせるよう、本人や家族にグループホームの指針を説明しケアの方向性を検討している。またかかりつけ医とも本人や家族の意向について情報共有している。		重度化や終末期でも利用者や家族が安心して生活が営めるよう、普段から職員も勉強し、本人や家族の意向を引き出せるよう取り組んでいかなければならない。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や利用者に関わる関係者と情報交換をおこない本人のダメージを可能な限り防ぐようにしている。		利用者がその方らしく生きがいをもって生活できるよう話し合いをしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を尊重し個別の対応を行っている。できる限りプライバシーを守り誇りが持てるよう支援している。	プライバシーが守れるような声かけや配慮を行っている。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者が思いや希望を表せるように自己決定を尊重した支援を行っている。	いろいろな活動や服装など利用者の要望を引き出せるような働きかけを行っている。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や外出などは利用者の聞き入れそれにあわせて支援している。	利用者のペースを優先した関わりを持つようにしている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服などは利用者から選んでもらっている。また入居前から利用していた美容院や理髪店に行けるよう支援している。	気分よく過ごしていただけるよう配慮すると共に、入居前からの暮らし方が続けられるように支援している。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れながら献立をたてたり、調理や盛り付けなども職員と一緒にやっている。	利用者一人ひとりに合わせた活動を検討している。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好を把握し楽しめるように支援している。	他の利用者も楽しめるよう分煙や飲酒量などは気配りしながら対応を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄状況を把握し、自立に向けた支援を行うようにしている。		声かけや誘導はさりげなく行い、排泄の失敗があっても自尊心を傷つけないよう注意を払った介助を行っている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は特に決めず利用者一人ひとりの希望や状況に応じて入浴の支援を行っている。		安全にかつ楽しく入浴していただけるよう配慮している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し状況に応じてやすんできよう配慮している。また気持ちよく眠れるよう支援している。		生活のリズムを整え安眠できるよう支援し、眠れないときも気持ちが安定できるような支援を行っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し楽しみや喜びの持てる活動の支援や気晴らしのできる支援をしている。		調理や畑作業など一人ひとりの要望に対する支援を行っている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人の希望や能力に応じて金銭の自己管理をいただいている方もいる。買い物際には本人が支払いができるよう支援している。		お金を使う場面では普段金銭管理をしていない利用者でも自分で支払いができるようさりげなく配慮している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に添ってできる限り買い物や外出の支援を行っている。		予定や計画にとらわれず柔軟な対応ができるようにしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日帰り旅行や外出企画を検討し出かけている。		頻回ではないができる限り家族などもお誘いし出かけられるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の使用は必要に応じて支援している。		いつでも必要時すぐに対応ができるよう配慮している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの方が訪問しやすいように環境作りを行っている。		居間や居室など居心地よく過ごせるよう環境整備をして行きたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。身体拘束の対象となる具体的な行為を理解し危険のないように見守りの方法を工夫するなど職員間でミーティングし対応している。		見守り方法をチームで考え工夫している。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は1日中かけずに過ごして頂いているがご自分でかけたい方はかけて頂いている。玄関の鍵は夜間防犯のためにかけているがそれ以外は開けてある。		最低限の防犯を行い、施錠しない方法をとっている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮しながらも様子や所在を把握している。		行動の制限をせずさりげなく見守りが行えるよう配慮している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤類は鍵のかかる棚で保管している。包丁も取り扱いに注意し危険のないように配慮している。		今後も配慮していく。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告やひやりはっとなどを記録として残し職員間で共有しその都度ミーティングにて要因・対策を検討している。必要時ケアプランに落とし込んでいる。		事故の分析、ひやりはっとの改善策を日々話し合い、ケアプランに反映させている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応の勉強会や火災時の避難訓練を消防署の方から来て頂き実施した。		AEDも設置してあるため、定期的な勉強会を開催していきたい。転倒時の対応等施設で起こりやすい事例を基にした勉強会も実施していきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練時には自主防災会や地元消防団の方にも参加して頂き建物の構造等も見てもらっている。		定期的に利用者実際に非常階段を使って1階へ降りて頂いたりそれぞれのレベルに合わせた安全な避難方法を検討していきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時には事故発生の可能性について説明している。また日々の様子と合わせ転倒等のリスクについてもご家族様へお伝えし対応策を話し合っている。		特に入浴時はどの方もリスクは高くなるが利用者によっては職員が浴室に入ることを拒否される方もおられるため、そのような場合はその旨を各ご家族様に伝えていく必要がある。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	疾患に応じて定期的にバイタルチェック等を行い記録し情報共有している。		医療連携の担当看護師とも定期的に情報交換し必要に応じて助言を受けている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテの処方録には効能を記入すると共に、おくすりカードも綴っており、症状の変化にも注意している。		内服の変更がある時はもちろん申し送り、副作用による状態変化にも配慮している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防や排便誘導について個別に介護計画にいれ取り組んでいる。		主治医や看護師とも連携し自然な排便が促せるよう配慮している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声がけを行い必要時は支援している。口腔内に問題が発生した時には事業所内の歯科衛生士に相談している。		歯科衛生士の指示のもと随時歯科受診を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事サービス向上委員会が中心になり定期的に管理栄養士より栄養バランス、献立をチェックしてもらっている。水分や食事が不足傾向の方はチェック表を使用し確認を行っている。		栄養や水分補給について不足しないよう配慮している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルを基に対応している。また毎年定期的に勉強会を開催している。		感染委員会を中心に勉強会を開催したり、蔓延予防の対策を講じている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮で安全なものを使用し、毎日調理器具の除菌、冷蔵庫の温度管理等を行っている。		食中毒や感染予防のための消毒は随時行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や敷地内に花などを育て近隣の方にも入りやすくなるよう工夫している。		玄関が道路より奥にありわかりづらいため看板を取り付けるなど分かりやすい玄関、より入りやすい玄関を考えていく。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにいろいろな植物や利用者と一緒に作った作品を飾り環境作りを行っている。		共有スペースには季節ごとに作品展示や掲示を行っているが廊下や玄関などはまだまだ環境作りが必要。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が楽しく過ごせるよう、また一人ひとりが気持ちよく過ごせるよう環境作りを行っている。		プライバシーが守れるよう配慮していくことも必要。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた物を持ち込んでいる。本人・家族と相談しタンス・ベッド等の配置の工夫している。		家具による危険を考え配置には配慮している。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は1時間に1回程度行い、冷暖房の使用時は冷やしすぎや乾燥などに注意し加湿器等を使用している。		空調の管理を行い温湿度を適度に保つようになっている。臭いもこもらないよう随時喚起している。
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立ち上がりが不安定な方にはつかまり棒を設置したり、歩行器を使用の方に歩行器をおく場所が確保できるよう食堂の席などに配慮したりの工夫をしている。		和室への段差は乗り越えに支障ない高さで設置している。フラットな空間であるが安全に過ごせるよう職員が配慮していかなければならない。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室のネームやトイレなどのネームを利用者の見やすい位置に表示するなどの工夫をしている。		利用者の中には表示の理解が困難な方もあるため職員の気配りなどフォローが必要。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や畑を作り水遣り・収穫等を日課にし活動したり、ベランダでもプランター菜園をしたりぜんまいや大根を干したり楽しんでいる。		通年で活動できるよう工夫していく必要がある。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

定期的に季節食作りを利用者と一緒に行っている。ご家族や地域の方にも参加していただけるようにその都度声をかけている。